

【卒業生 学術活動報告】

視能訓練士学科 1 年制 13 期生 藤定 恵美さん

No.1. 学会ポスター発表

演題名： 裂孔原性網膜剥離及び黄斑上膜における 白内障手術併用硝子体手術での屈折誤差の検討

発表年月日： 2023 年 11 月 18 日発表

学会名：日本視能訓練士協会 第 64 回視能矯正学会

概要：

【目的】

白内障手術後の屈折ずれについては過去に検討されてきたが、白内障手術併用硝子体手術後の屈折ずれに関しては明らかでない。

そこで、(1)黄斑部未剥離の裂孔原性網膜剥離(以下 RRD)群、(2)黄斑上膜(以下 ERM)群及び(3)白内障単独(以下 control)群の術前ターゲット度数と手術後の屈折度数の差を比較した。

【対象と方法】

2021 年 4 月～2023 年 3 月の期間、当院で(1)～(3)の手術を行った症例のうち、術後 6 か月間経過観察できた RRD 群 21 名 21 眼、ERM 群 29 名 31 眼、control 群 29 名 30 眼を対象とした。眼軸長(以下 AL)の測定には光学的眼軸長測定装置(IOL master®もしくは OA-2000TM)を使用した。当該症例の術前ターゲット度数と手術直後、6 か月後の他覚的等価球面屈折度数の誤差(以下他覚的 SE 誤差)と、手術直後、1、3、6 か月後の自覚的等価球面屈折度数の誤差(以下自覚的 SE 誤差)を比較した。さらに、CASIA®2 による前房深度(以下 ACD)と AL について、術前と 6 か月後の差を検討した。

【結果】

他覚的 SE 誤差と自覚的 SE 誤差ともに、RRD 群と control 群間の全ての測定ポイントで RRD 群が近視化しており、統計的有意差を認めた($p < 0.05$)。また、RRD 群の ACD 差は、ERM 群と control 群のものと比較して約 1/2 小さく、統計学的有意差を認めた($p < 0.05$)。

【結論】

RRD 群は全ての測定ポイントで control 群と比較し、有意に近視化していた。また、ACD 差が小さいことから RRD 群の近視化は眼内レンズの位置が前方にあるためと考えられた。